



第10回高大連携教育研究会のご報告

総合ビジネス・情報学科(LAセンター長) 小椋 理子

社会人として必要な基礎学力とは？教養とは？なかなか答えを見出せないこれらの問いに対し、これまでとは異なる観点で考える研究会を開催しました。

一人目の登壇者として、前年度の研究会で、高校におけるアクティブラーニングの進展をお話いただいた藤沢清流高等学校の小島昭彦先生に話題提供をお願いしました。あらたな試みとして実践された英語・理科・家庭科・農家(社会人)のコラボレーションによる授業は、生徒に基礎学力の重要性を実感として与えつつ、“Making the right questions”によって生徒が自ら答えを見出すための探求心を育む工夫がなされた興味深いチャレンジでした。

二人目は総合ビジネス・情報学科の学科長でもある小森潔先生に「高校における国語教育/短大における日本語教育」と題してお話いただきました。グローバル対応や、ビジネスで勝つことに重きを置きすぎた結果、母語としての日本語、考えるツールとしての日本語をおろそかにする教育がなされていないか、本学のリベラルアーツ教育全体をも再度考えさせられる、深い内容でした。

まだまだテーマに対する答えを得るには至っていませんが、研究会で得られる知見を高校・大学の連携の中で活かして行きたいと思えます。

また、今回研究会の開始時刻を1時間早めました。ご多用中にもかかわらず、8高校(厚木北高校、厚木西高校、綾瀬高校、有馬高校、海老名高校、小田原東高校、高浜高校、藤沢清流高校)からご参加いただき、本学からも宮下学長をはじめ14人の教職員が参加し、さまざまな感想とご意見を伺い、広範かつ多岐にわたる情報交換を行うことができました。

日時：平成30年2月6日(火) 14:00～15:50

会場：湘北短期大学1号館2階120教室

テーマ：社会人として必要な教養と基礎学力

●「教科横断型授業の試み」

藤沢清流高等学校 総括教諭 小島昭彦先生

●「高校における国語教育/短大における日本語教育」

総合ビジネス・情報学科 学科長 小森潔



小島昭彦先生

高校における国語教育/短大における日本語教育

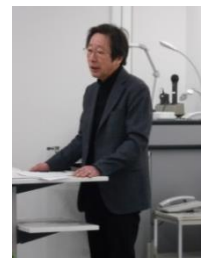
総合ビジネス・情報学科 学科長 小森 潔

本学学生の中には、基本的な日本語の能力に問題がある者が多数見受けられる。基礎的な語彙力が不足しているため、SPI 試験(漢字の読み書き・四字熟語・慣用句等々)ができない。また、「話す・書く」力の不足から、自分の考えを論理的に説明できない、就職活動における「履歴書」「エントリーシート」のみならず簡単なレポートも書けないといった現状もある。ただ、これは本学だけでなく、多くの4大・短大にも見られる状況といえる。小学校から高等学校までの12年間、「国語教育」を受けてきたにもかかわらず、なぜ「話す・書く」力が身に付いていないのか。

たとえば、文部科学省教育課程部会国語ワーキンググループの報告(「学習指導要領改訂の方向性」平成28年2月19日)に拠れば、「教科書教材等への依存度が高く、主体的な言語活動が軽視され、依然として講義調の伝達型授業が行われる傾向」があること、「話すこと・聞くこと」「書くことにおける学習が低調」といった現行の高校国語科の課題が指摘されている。

今回の報告では、私自身の高校国語科教員としての経験や「高校国語」教科書の編集に長らく携わって得た知見等をもとに、現行の高校国語科教育の置かれている現状と課題、また、「日本語能力」育成を目標とする本学リベラルアーツ科目「日本語リテラシー(全学共通の必修科目)」の学習内容を紹介した。

「新学習指導要領」のもと、「高校国語」の科目構成は大幅に改訂される予定で、解釈が中心になりがちであった学習の変化も期待されるところである。このような状況をよい機会と捉え、今後は高等学校の特に国語科の先生方との意見交換に積極的に取り組み、若者の「日本語能力」育成の方法を探っていきたい。





第10回高大連携教育研究会の様子

「アクティブラーニング型授業では、ティーチャーではなく、ファシリテーターに」と、小島先生が紹介された授業は、ワークショップ(WS)のようだった。図書館のオープンスペースでWS型授業に触れている立場から小島先生の実践をWS的に捉えてみる。

まずはプログラムデザイン。担当授業はコミュニケーション英語Ⅱだったが、基本的な、本文を理解し重要単語・熟語を覚える、の先に小島先生の授業が展開されていた。本文のピックについて、現実はどうなのかニュース等から情報をピックアップ、さらに当事者に取材をし、何が問題なのか、教科書では触れられていないところを深掘りしていく。それはすでに社会科の学習だった。さらに、理科、家庭科の先生、農家の方をゲスト

に迎え、それぞれの視点も紹介。多角的に考えられるようなしかけがされていた。

次にファシリテーションデザイン。グループでの協働作業を円滑に、活発に進めさせるしかけが随所に見られた。特に導入部分が重要な役割を担っていた。冒頭に授業の方針や目的を共有し、生徒各自の主体的な授業への参加を促し、次に間違いや疑問が授業に貢献すること、意見の違いが面白いことなど、安心の場であることを説明。アイスブレイクを丁寧に行い、グループワークの活性化に繋げる。グループワークにおいても一つ重要なポイントが、「リーダーシップ」だ。当校では昨年度より「リーダーシップ教育」を導入し、授業や課外活動など学校全体でその教育を推進している。リーダーシップとは、リーダーとは限らず、先頭に立って引っ張るのではなく、仲間を支援することもリーダーシップの一つということだ。グループのメンバーが自分の役割を認識し、目標達成のために協力しあうという形が個々の主体性を引き出し、また個人の能力を超えて、グループならではの成果を上げられるのではないかと、思った。

生徒達はこのような授業を通して、単なる教科学習を超えて現実社会へ目を向ける機会を得、グループワークを通して他者との協働作業の楽しさ、効果を実感するに違いない。なお、生徒の振り返りで印象的だったのは、「こういうタイプの授業は苦手」や「英語は英語、理科は理科など分かれている方がいい」という意見だった。生徒達は、従来の学校教育を通して「勉強とはこういうもの」と無意識に思い込んでいるのだと感じた。他にも、「間違っはいけない」、「わからないのは恥ずかしい」、「リーダーは皆を引っ張っていくべき」など、無意識の思い込みはたくさんあるのではないかと。このような思い込みが、小島先生を中心とする藤沢清流高校での授業を通して払拭されていくのではないかと期待を持った。

高校の現場から ~つぶやき、卒業生たちの最後の授業~

神奈川県立有馬高等学校 吉垣 俊一



吉垣俊一先生

3月2日、私が担任をする33期生の卒業式が行われました。3年前、緊張の表情で入学式に臨んだ生徒たちの顔がつい昨日のように思い起こされます。しかし、今日、呼名されて立ち上がる時の表情は3年前のそれとは全く違い、これから何をすべきか個々に明確な意思を持ち、その決意を返事に託しているかのように見えました。堂々と返事をする、確かに成長して頼もしくなった生徒たちが目の前にいました。つい数か月前は、「なんて幼くて頼りない3年生。これで本当に卒業していいのだろうか。」と、本気で心配しましたが、取り越し苦労のようでした。

式中の態度も行動も大変立派でした。特に式歌の斉唱においては、練習時間がなく、前日の予行では歌詞も覚えていなかったのに、驚くほど完成されていました。個人が練習不足を補い、何かしら準備をしたのでしょ。指揮者や演奏者は、予行後も時間が許す限り練習をしていました。退場時には、クラスの代表者の掛け声で礼儀正しくクラス全員で担任に感謝の気持ちを伝えました。いずれも生徒一人ひとりが自覚し、自主的に行動したものです。誰かがリーダーシップを発揮して主体的に行動を起こし、生徒たちが自主的に卒業式に参加し、式参加者全員と協同して最後の行事を成功させました。

さて、本校でもアクティブ・ラーニング(AL)の導入がしきりに言われています。しかし、なかなか従来の授業スタイルを変えられず苦悩しているのが現状です。でも、生徒たちはこの卒業式で見られたようにリーダーシップを発揮し、主体的に準備をし、自主的に行動し、周囲の人々(保護者や教師や在校生ら)と協同して一つの行事を成功させました。彼らは、リーダーシップも主体性も自主性も協同性も身に付けていたのです。でもそれは、私たちが子どもの頃から家庭や学校で学び身に付けたことと同じです。ですから、ことさらALと力まなくともいいのだと改めて感じました。ALを強いて言うなら教授するのではなく共学することを意識すればいいのだとも確信できました。今日の卒業式は、ALの理解に四苦八苦してきた私に答えのヒントを与えてくれました。自分に何が出来て、何が出来ないのかを的確に知り、出来ることに全力で取り組む人。出来ない事を出来る人に託せる人。自分の成長を望み、そのために行動できる人。そして自分の能力を正しい考え方で行使できる人。そんな人とまた一緒に学んでみたいという意欲が湧いてきました。自分のやりたいことを思い出させてくれた卒業生諸君、最後の授業をありがとう。今日は、主体的で深い学びができました。これぞアクティブ・ラーニングですね。

平成 29 年度 出張授業(後期)のご報告・予定

藤沢清流高等学校 (2年生 15名対象)
「からだを使った、おもしろ表現あそび」

保育学科講師 小笠原大輔

「からだを使ったおもしろ表現あそび」というタイトルで出張授業を行いました。

まず、誰でもすぐにできる「ハイタッチ」を様々なスタイルで行い、そこから動きを発展させて短いフレーズのダンスに展開しました。ハイタッチ自体が楽しいので、自然と笑顔になり、声も出ます。次のペア・ストレッチでは、難易度が増すにつれ、笑い声も大きくなり、ブラインド・ウォークでは集中しながらも“からだ”をひらいていくことができました。最後は、オノマトペカードやムチャぶりカードを使った即興表現を行いました。

表現力というと歌が上手いとか踊りが上手いとか、もっぱら技術面に着目しがちですが、本来の表現の醍醐味は「一人ひとり感じ方や考え方が違う。それに気づき尊重し合うこと。おもしろがれること」であることを伝え、また身体接触を伴う遊びの重要性や“表現”と“表出”についても触れ、実感を通して表現あそびの面白さと大切さを知ってもらいました。

高校生の皆さんは、はじめは緊張していたようですが、いざ動き始めるとすぐに柔らかな表情になり、積極的に取り組んでくれました。

「動きが心をつくる」とも言われます。まずは自ら動いて楽しむ、そんな保育者を目指すきっかけになってくれたら幸いです。

川崎総合科学高等学校 (2年生 39名対象)
「ゲームはどうやって作られているのか？」

総合ビジネス・情報学科准教授 高木亜友子

12月14日(木)、川崎総合科学高等学校の2年生を対象に、出張授業「ゲームはどうやって作られているのか？」を実施しました。

前半はゲームの制作について、企画から運用までの流れと制作に関わる様々な役割の話をしました。プロデューサーやディレクター、プログラマーやデザイナーなど、どのような仕事をして、どのような人が向いているかなど、業界のあるある話を交えながら様々な職業を紹介しました。

後半はゲームエンジンUnityを使って実際にゲームを制作しました。Unityはゲーム業界でも多く使われているソフトウェアで誰でも気軽にダウンロードして使うことができます。この授業では立方体をキャラクターと地面に見立てて、3D空間にゲームのステージを構築しました。また、キーボードの入力でキャラクターを動かす仕組みをプログラミングで実装しました。中には教えた機能をアレンジして、サッカーのような対戦ゲームを作成する生徒もいました。Unityを初めて触る人でも、物体の色や、動くスピード、ステージの地面を増やすなど、様々なアレンジをして自分なりのゲームを制作することができました。

【実施の報告】

日時：平成29年11月7日(火) 13:30~15:50
高校：座間高等学校
授業：「Scratchによるプログラミング」
総合ビジネス・情報学科教授 内海太祐



日時：平成29年11月14日(火) 13:00~16:20
高校：藤沢清流高等学校
授業：「からだを使った、おもしろ表現あそび」
保育学科講師 小笠原大輔



日時：平成29年12月14日(木) 10:40~12:10
高校：小田原東高等学校
授業：「数字にだまされないための統計学」
総合ビジネス・情報学科教授 小埯理子



日時：平成29年12月14日(木) 13:30~15:30
高校：川崎総合科学高等学校
授業：「ゲームはどうやって作られているのか？」
総合ビジネス・情報学科准教授 高木亜友子



日時：平成30年1月9日(火) 14:30~15:30
高校：二宮高等学校
授業：「保育学および発達心理学の側面から、食事とコミュニケーションについて理解し、共食の大切さを知る」
保育学科准教授 高木友子



座間高等学校 出張授業の様子



小田原東高等学校 卒業生による一言

【今後の予定】

日時：平成30年3月13日(火)・15日(木)
8:50~12:20(4コマ)
高校：有馬高等学校
授業：「コミュニケーション研修会」
総合ビジネス・情報学科教授 飯塚順一



日時：平成30年3月22日(木) 10:40~12:20
高校：小田原東高等学校
授業：「現代社会コミュニケーション
～お互いに理解しあうために～」
総合ビジネス・情報学科教授 飯塚順一



平成 30 年度 コミュニケーションリテラシー開講(入学前授業)

湘北短期大学リベラルアーツセンターでは、入学予定者を対象に、入学前授業として「コミュニケーションリテラシー」を開講しています。これは、大学と高校の違いを理解し、大学や社会で必要とされるコミュニケーション能力を発展させることを目的とした講座です。一つのテーマに沿ってグループでまとめあげるプロジェクトを体験し、全 15 講(入学前 12 講、入学後 3 講/eラーニング)終了後には、2 単位が付与されます。

1 日目

<受付>
【ガイダンス】
【ノンバーバルコミュニケーション】

ノンバーバル(言葉によらない)コミュニケーションの重要性について学びます。

2 日目

【図書館の利用と検索】
【コミュニケーションの基本 話す技術】
【コミュニケーションの基本 書く技術】

コミュニケーションの基本、「話す」と「書く」について、発声や話し方、文章作成の手順などを身につけます。大学図書館では、利用方法や資料の調べ方について学びます。

3 日目

【問題の発見】
【問題の発見 MS-Office 群の活用】
【情報の分析と問題解決①グループワーク】

社会人として働く上で必要不可欠なスキルのひとつ、MS-Excel の基本操作を学びます。

4 日目

【情報の分析と問題解決②グループワーク】
【プレゼンテーション・グループワーク】
【発表とまとめ】

3 日間で学んだことをグループメンバーと協力して問題解決し、プレゼンテーションを行います。

A 日程 2 月 5 日(月)~8 日(木)

B 日程 2 月 6 日(火)・7 日(水)・9 日(金)・13 日(火)

C 日程 3 月 19 日(月)・20 日(火)・22 日(木)・23 日(金)

D 日程 3 月 20 日(火)・22 日(木)・26 日(月)・27 日(火)

※全日 11:00~16:30



湘北短期大学の高大連携 WEB サイトリニューアル

<http://scopp.shohoku.ac.jp/>

今年度 6 月、湘北短期大学の高大連携プログラム専用サイトをリニューアルいたしました。湘北短期大学ホームページ TOP(下方) **【高校教員の方】** からアクセスしていただけます。あわせて「県立高校学習活動コンソーシアム」(<http://www.pref.kanagawa.jp/ent/f535364/>)にも、参加機関・団体としてプログラムを提供しています。出張授業をはじめ、各種プログラムは随時、お申込みを承りますので、ぜひ、高校の現場でご活用ください。

Twitter フォローをお願いいたします！ 湘北短期大学リベラルアーツセンター @shohoku_lac

昨年9月より Twitter をはじめました。リベラルアーツセンターの活動、高大連携のイベント(出張授業、研究会など)をできるだけリアルタイムでお知らせしていきます。ぜひ、フォローをお願いいたします。

湘北短期大学リベラルアーツセンター

(担当：北野・岡廣)

〒243-8501 神奈川県厚木市温水 428
TEL:046-247-3131/FAX:046-247-3667
E-mail:LAC@shohoku.ac.jp
URL: <http://scopp.shohoku.ac.jp/>



湘北
ナビットくん

高大連携通信 vol.15

発行日:平成 30 年 3 月 8 日(木)

発行元:湘北短期大学
リベラルアーツセンター